

## 専門への橋渡しとしての口頭研究発表プロジェクト

三浦香苗（金沢大学留学生センター）

大学院予備教育（日本語研修コース）期間中の教育として、「専門への橋渡し」が必要であることは、異論のないところであろう。6ヶ月という限られた期間中に、日本語初歩の段階から、何をどのように教えればいだろうか。ここでは、金沢大学留学生センター1995年の設立以来、改良しながら行ってきた口頭研究発表プロジェクトを、一つの例として紹介する。

**【対象】**: 大学院予備教育中の日本語初級レベル研究留学生

**【プロジェクトの種類】**: アンケート調査に基づく研究発表

**【プロジェクトの期間】**: 6ヶ月集中コース期間内

**【プロジェクトの目的と期待される効果】**: プロジェクトが専門領域での発表のために役立つことを目的とする。即ち、

一般的な研究の方法、口頭発表の言語スタイルを習得し、口頭発表に慣れること、また、

コンピュータの利用そのものに慣れ、コンピュータの利便性を活用できるようになることを目指す。

**【留学生の発表テーマ例】**: 「日本人と広告」「自動販売機と若い人の喫煙について」「茶髪」「金大生にとって

人生の成功とは何か」「『おれ』と『あたし』」「ゴミの分別に関する金沢市民の意識」

**【作業項目】** 1. テーマを見つける: 日本人論等の読み物（英語）を読み、自分で発見したことについてクラスで皆と討論（英語も可）してテーマを絞る。2. アンケートを作る: 何を明らかにしたいかを考えて項目を選び、後のデータ処理のことも考慮して最適な質問と答（選択肢）を考える。3. 質問紙によるアンケート調査（日本語）

を行う。4. データ入力: エクセルを使用。

5. データ分析: 度数分布、 $\chi^2$ 検定、t検定、相関係数・回帰分析を日本語ソフトを使って行う。

6. 考察と結論 7. 発表のアウトライン 8. 発表スライド用箇条書きの方法

9. 発表スライド作り: Power Point を使用し、図表、写真等を効果的に使う。

10. 口頭発表原稿を書く。11. 口頭発表練習: 発音・態度も指導。

12. 口頭発表（日本語）

以上、簡単に紹介したが、本プロジェクトは、単なる「日本語による発表」（自分の意見を述べる発表や、自分の専門を紹介する発表）に較べると遥かに高度である。自分でデータを集め、統計的手法を用いて分析し、最終プロダクトとしての発表ではデータと話すこととの整合性が問われる。

敢えてこの難易度の高いプロジェクトを行う意義は、専門課程に進学した修了生からのコメントにうかがえる: 「コース中は、なぜこんな難しいことをするのだろうと思ったが、専門課程に進学後、本当に役立った」「専門課程でt検定や $\chi^2$ 検定を使う」

「日本語で発表する練習ができた」

追記: 1999年度からは、春学期は上記の個別口頭発表プロジェクト（自主教材『五ヶ月で口頭発表』使用）を行い、教員研修生が大半を占める秋学期は、研究発表の中に寸劇を織り込んだ集団による発表（ハイブリッド・ドラマプロジェクト）を行っている。学生の目的・ニーズおよび能力・傾向を考慮した結果である。尚、教材は大幅に改定し、近々出版・市販する予定である。